

令和5年度（2023年度）第1回函館市まち・ひと・しごと創生推進会議

会議録

- 開催日時：令和5年（2023年）11月30日（木） 18:30～19:30
- 開催場所：函館市本庁舎8階第2会議室
- 出席者
委員：齋藤委員，中野委員，岡崎委員，奥平委員，田村委員，長谷川委員，
相庭委員（委員名簿順 [7名]）
市側：[企画部] 阿部部長，渡邊室長，山口次長，木谷課長，小林主査，
佐々木主事

.....
次 第

- 1 開 会
- 2 委員および事務局紹介
- 3 議 事
 - (1) 第2期函館市活性化総合戦略の評価・検証について[令和4年度実績]
 - (2) 第2期函館市活性化総合戦略の一部改訂について
 - (3) 地方創生交付金対象事業の評価・検証について[令和4年度実績]
 - (4) 企業版ふるさと納税活用事業の実績および評価・検証について
[令和4年度実績]
- 4 その他
- 5 閉 会

..... 1 開 会

(事務局 木谷課長)

ただ今から、令和5年度第1回函館市まち・ひと・しごと創生推進会議を開催する。

私は、事務局の企画部計画推進室計画調整課長の木谷である。

本会議については原則公開で行い、会議内容については、開催後に本市のホームページで公開する。

本日の会議は、都合により1名の委員が欠席しているが、委員8名中、過半数の7名の出席があることから、会議が成立することを報告する。

..... 2 委員および事務局紹介

(事務局 木谷課長)

今回は、委員改選後、初めて出席される委員もいらっしゃるため、選任された委員を紹介する。

学識経験の分野から、北海道教育大学函館校より、委員長の奥平委員である。同じく学識経験の分野から、函館短期大学より、副委員長の岡崎委員である。産業分野から、函館商工会議所より、齋藤委員である。同じく産業分野から、五稜郭タワー株式会社より、中野委員である。金融の分野から、株式会社北洋銀行函館中央支店より、田村委員である。報道関係の分野から、株式会社ニューメディア函館センターより相庭委員である。労働の分野より、連合北海道函館地区連合会より、長谷川委員である。

以上、委員7名に出席いただいている。本日欠席となっている公募委員の北見委員を含め、計8名の委員の皆様である。

次に、事務局職員を紹介する。企画部長の阿部である。

(事務局 阿部部長)

本日は、お忙しいなかご参集いただき、感謝している。

ご承知のとおり、本市の人口は、毎年3千人規模で減少しており、非常に厳しい状態である。人口減少対策については、長期的な視点で継続して取り組む必要があり、本会議の評価を踏まえながら、各種施策を進めたい。本日は、よろしく願いしたい。

(事務局 木谷課長)

次に、計画推進室長の渡邊である。企画部次長の山口である。計画調整課主査の小林である。計画調整課の佐々木である。

以降、まち・ひと・しごと創生推進会議設置要綱第6条第3項に基づき、奥平委員長に会議の進行をお願いする。

..... 3 議 事

(1) 第2期函館市活性化総合戦略の評価・検証について[令和4年度実績]

(奥平委員長)

本日は、4件の議題があり、1つ目は第2期活性化総合戦略の令和4年度実績の評価・検証について、2つ目は第2期活性化総合戦略の一部改訂について、3つ目は地方創生交付金対象事業の令和4年度実績の評価・検証について、4つ目は企業版ふるさと納税活用事業の令和4年度実績と評価・検証についてである。

それでは、早速、議事(1)「第2期函館市活性化総合戦略の評価・検証」に入る。

資料1と2について、事務局から説明をお願いします。

(事務局 木谷課長)

【資料1】に基づき説明

(事務局 小林主査)

【資料2】に基づき説明

(奥平委員長)

ただ今説明のあった資料1の数値目標の現状と、資料2のKPI等について、質問や意見はないか。

(岡崎副委員長)

資料2のKPI評価調書の内部評価の基準について申し上げたい。資料2枚目「乳幼児健康診査受診率」の4か月児の令和4年度実績に係る評価は、前年度より0.1ポイント下落し、C評価で、「前年度より悪化」となっている。客観的に理解はできるが、0.1ポイントの差を悪化と言えるかについては、議論が必要かと思う。

A評価については、「前年度より改善・上昇」となっているため、C評価についても、「前年度より悪化・低下」等とすれば、「悪化している」という価値判断以外の見方ができるようになるのではないか。

(奥平委員長)

事務局より回答をお願いします。

(事務局 木谷課長)

現在の評価方法では、全ての項目について統一的に、評価にぶれが生じないことを第一に考え、機械的に前年と比較した数値の増減のみをもって判断しているが、ご意見のとおり、一般的な感覚という視点では、評価がそぐわない部分もあるため、来年度に向け、評価基準にかかる再検討が必要と考える。

(奥平委員長)

ほかに何かあるか。

(齋藤委員)

昨年から引き続き、コロナによる影響が圧倒的に多いと感じる。特に観光関係のK P Iでは、前年から実績が伸びて当然である。このような場合には、「評価不能」とすべきと考える。

また、先ほど意見があったとおり、0.1ポイントの増減であれば、評価基準Bの「横這い」とすれば良いのではないか。

加えて、「函館市内での旅行費用（飲食費）」については、大きく実績を伸ばしているが、これは、全国的な傾向である。評価として、前年実績からの単純な増減による評価ではなく、類似都市との比較やインフレ率を含めた評価でなければ、意味をなさないのではないか。

(奥平委員長)

事務局より回答をお願いする。

(事務局 木谷課長)

コロナ禍において受けた影響は各事業によって異なり、それぞれの状況を一律に評価へ反映することが困難であるため、先ほどのご意見でも回答したように、項目間の評価の統一を優先し、現行の評価方法を採用したところだが、評価が実情に見合わない項目があることはご意見のとおりであり、先ほどの副委員長からのご意見も含め、来年度に向け、総合的に検討したい。

(奥平委員長)

私からも一つ申し上げたい。評価の指標について、単年度の数値をもって評価するものと、複数年の累計数値をもって評価するものが混在しており、評価が難しいと感じる。来年度に向けて、指標の設定についても再考した方が良いのではないか。

(事務局 木谷課長)

第2期戦略策定時に様々な議論を経て現行の指標を設定したところだが、来年度の改訂を機に、評価基準と併せて検討が必要だと考える。

(奥平委員長)

他に何かあるか。

(委員から特に質問、意見なし)

これをもって、「第2期函館市活性化総合戦略の評価・検証」については、了承とする。

来年度は、ただ今の意見を踏まえ、計画の策定にあたることとなる。委員の皆様においては、お忙しいことと思うが、よろしく願いしたい。

(2) 第2期函館市活性化総合戦略の一部改訂について

(奥平委員長)

それでは、議事の(2)「第2期函館市活性化総合戦略の一部改訂」について、事務局から説明をお願いしたい。

(事務局 木谷課長)

【資料3】に基づき説明

(奥平委員長)

何か質問や意見はあるか。

(委員から特に質問、意見等なし)

それでは、これをもって、改訂内容の確認について終了する。

(3) 地方創生交付金対象事業の評価・検証について[令和4年度実施事業]

(奥平委員長)

次に、議事の(3)「地方創生交付金対象事業の評価・検証」について、事務局から説明をお願いしたい。

(事務局 小林主査)

【資料4】に基づき説明

(奥平委員長)

何か質問、意見はあるか。

(齋藤委員)

それぞれの数値が何を示しているか、資料の見方について教えていただきたい。

(事務局 小林主査)

資料1 ページ目の「多文化共生社会の実現による外国人材いきいき活躍プロジェクト」を例に説明する。

指標「在住外国人の数」について、1,055人という数字は、事業開始前の在住外国人の数であり、各年度において、表の上段は増加人数である。令和2年度であれば、1,155人になれば目標を達成するということを表している。

(齋藤委員)

上段は増加目標値という認識で良いか。

(事務局 小林主査)

そのとおりである。

また、下段は実績であり、令和2年度では66人が増加し、実数値として1,121人と記載している。令和3年度と令和4年度についても同様であり、KPI累計は、3年間の合計となっている。本項目で言うと、3年間で在住外国人が300人増加することを目指していたが、286人の実績であり、目標達成には若干届かなかったということを表している。

(齋藤委員)

記載内容について承知した。

(長谷川委員)

私からも一つよろしいか。資料4の5ページの新規雇用者数は、先ほど資料2の6ページで説明を受けた指標と同一かと思うが、資料の2ではS評価で、すでに目標を達成しているのに対し、資料4では、3か年の目標数値301人に対し、現時点で92人の実績という状況で、令和5年度の達成が困難であるように見受けられる。どちらが正しいのか、また、このことによってどう評価されるのか、考え方について教えていただきたい。

(奥平委員長)

事務局より回答をお願いします。

(事務局 小林主査)

資料2と資料4の指標「新規雇用者数」では、同一の数値を用いているものであるが、評価の整合性が取れていない状況にあることはご指摘のとおりである。次期戦略策定時に指標の立て方を検討しなければならないものと考えている。

(奥平委員長)

これは仕方がないのではないか。

(齋藤委員)

先ほど委員長がおっしゃったように、累計の指標については、AかS以外の評価がつかないということになる。

(奥平委員長)

齋藤委員からもあったが、累計値を用いることによって、評価をするうえで不都合が生じているのではないかと思う。今この場で指標の立て方や評価基準の設定について議論するつもりはないが、来年度の戦略改訂時には、このような状況を改善しなければならないと考えており、事務局にはご検討をいただきたい。また、先ほど木谷課長からもお話があったように、来年度は改訂年であり、この場で戦略の内容を考えていくこととなるため、委員の皆様においても、現状を踏まえ、次回会議に備えていただきたい。

それでは、これをもって、地方創生交付金対象事業の評価・検証については終了する。

(4) 企業版ふるさと納税活用事業の実績および評価・検証〔令和4年度〕について

(奥平委員長)

次に、議事の(4)「企業版ふるさと納税活用事業の実績および評価・検証」について、事務局から説明をお願いしたい。

(事務局 小林主査)

【資料5】に基づき説明

(奥平委員長)

私から一つお聞きしたいのだが、こちらについては、K P I 等が記載されておらず、表の形式が他の資料と異なっているが、本項目における評価とは。

(事務局 小林主査)

企業版ふるさと納税は、地域再生計画という計画に基づくものであり、当該計画上で設定しているK P I は、第2期函館市活性化総合戦略のK P I と同一である。

第2期活性化総合戦略に搭載の事業を効率的に推進するために企業版ふるさと納税を募るというつくりとなっているため、企業版ふるさと納税の寄附金額の多寡等による評価をするものではなく、先ほど議事(1)でご説明した資料2における指標の評価をもって、本項目の評価としている。

(奥平委員長)

資料5を一見したところでは、わかりにくいように思う。

(事務局 小林主査)

次回会議において、資料のつくりについては見直したいと考える。

(事務局 木谷課長)

私から補足させていただく。資料5の内容は、あくまで総合戦略搭載事業に関して寄附を募った実績であり、資料2に記載の各事業推進状況に係る評価が、寄附の活用を反映したものとなっている。

企業版ふるさと納税制度の活用にあたって、国から地域再生計画の認定を受ける際、事業の評価を行うこととされているため、本会議における戦略の事業評価と併せて、資料として実績をお見せしているところである。

(奥平委員長)

現状、本資料では、実績・結果をお示しいただいているとのことだが、やはり資料にK P I 等を搭載し、評価を付すことができるようにすべきかと思うが、いかがか。

(事務局 渡邊室長)

企業版ふるさと納税を活用するにあたり、総合戦略に基づいた地域再生計画というものを策定しているなかで、総合戦略搭載事業を寄附対象事業としている。

つまり、すでに総合戦略搭載事業として設定されているK P I を目標として、企業版ふるさと納税を募るというつくりであり、「第2期活性化総合戦略のK P I を達成するために集める寄附」という位置づけのため、具体的に「どの事業に・いくら寄附を充てる」という評価をするものではない。

(岡崎副委員長)

資料5が一般的に持つ意味合いとしては、評価・検証というよりは、報告に近いものかと思うので、たとえば、資料2のK P I の内訳のような形で、全体の構成が分かるようにお伝えいただければ、理解しやすいのではないか。

(事務局 渡邊室長)

ご意見感謝する。こちらの資料については、議事というより、報告という扱いがふさわしいかと考える。このような部分も含めて、来年度皆様に提案させていただきたい。

(奥平委員長)

ただいまお話があったように、資料5については、報告事項としての取り扱いとした方が良く考える。皆様のご発言・ご回答に感謝する。

..... 4 そ の 他

(奥平委員長)

本日の議題は以上であるが、皆様からご質問・ご意見はないか。

(事務局 阿部部長)

委員の皆様から様々ご意見をいただき、感謝する。

実のところ、部内においても、資料の構成、また、指標の内容や評価基準等について、理解しにくいのではないかと議論があった。しかしながら、交付金の資料など、国への報告の形式に倣っており、変えられない部分もあるほか、指標や評価基準の設定についても、すでに現在の枠組みで進んでいる状況から、今回はこのような形で諮ることとした。

現状の計画も、策定当時議論を重ね、委員の皆様から意見をいただきながら決定したものが、その時その時で、より良いものに変えていく必要があると考えている。先ほど担当課長からもあったように、来年度は、本日のご意見を踏まえ、次期戦略を策定してまいりたい。

(奥平委員長)

過去には、内部評価が軒並みCやDという低い評価になった時代があり、議論となった。そのような経過を踏まえて、現在のような指標や評価方法を採用した一面もあると思うが、結果的に評価の仕方があいまいになってしまったのではないか。資料のつくりも含め、改善すべき部分は来年度に向けて見直すことができれば良いと考える。このほか皆様から何かあるか。

(委員から特に質問、意見等なし)

それでは、事務局よりお願いします。

(事務局 木谷課長)

会議の議事録について、とりまとめ次第、委員に確認のうえ公表予定である。

また、会議中にもあったように、来年度中に次期総合戦略の策定を予定していることから、策定にあたっては、委員の皆様にご協力をお願いしたい。

..... 5 閉 会

(奥平委員長)

これをもって、令和5年度第1回函館市まち・ひと・しごと創生推進会議を終了する。円滑な議事進行へのご協力に感謝する。

以上